

令和6年度 社会福祉法人 協愛福祉会 施設自己評価表

(保育理念)

Happy+Natural
Happy+challenge

(保育目標)

げんきな子 やさしい子
がんばる子 ゆたかな子

A：よくできている

B：わりとできている

C：一部改善が必要

D：改善しなければならない

	内容	前年評価	今年評価	現状・課題
保育目標に	(1)保育士一人一人が、協愛福祉会の保育理念、保育目標を理解している	B	B	子どもたちのつぶやきや遊びから活動への広がりや発展が見られた。プロジェクトに繋がるまでには進まなかつたが、法人の保育理念や保育目標を意識し、職員も子どもたちと一緒に楽しみ遊びの中からプロジェクトに繋げていきたい。
	(2)子ども一人一人の主体性を大切にした保育をしている	B	B	
	(3)すべての子どもについて一人一人の存在と、その人種を尊重している	B	B	
保育について	(1)保育計画に基づき、子ども一人一人の発達の姿や興味を把握して、年間計画、月のカリキュラム、週案を立てている	B	B	安全面が重視され、子どもたちの発達や興味がスムーズに活動に取り入れられない事もあった。年度の後半になり職員間の情報共有が出来てきたことで、異年齢保育での活動が活発になり、雑談から職員全体で子どもたちの遊びや発達について話し合うことができた。色々な素材や・用具を使用して様々な体験をすることが出来た。
	(2)3歳未満児は、現在の姿を理解し、一人一人に保育計画を立てている	B	B	
	(3)素材・用具を適切に使用している	B	B	
	(4)環境の構成を意識した保育や過程を常に工夫している	B	B	
	(5)職員間で子どもへの理解を深め、お互いの考えを十分に理解したうえで、保育を行っている	C	B	
	(6)1日の流れ(デイリープログラム等)は現行でよい	B	B	
食育について	(1)食育の重要性を理解し、季節や年齢に合わせて食育計画を立てている	B	B	年度途中に栄養士職員の入れ替わりがあったことで保育との連携が難しいこともあったが、身近な食材から食事の楽しさを知ることが出来た。アレルギー児対応は、職員全員で共有し連携していく。
	(2)栄養士、保育士が連携し、会議等で意見を交わしながらより良い給食になるよう努めている	C	C	
	(3)アレルギー疾患等の子どもに対し医師の指導の下、保護者との連携を図り適切な対応を行っている	B	A	
役員研修構成	(1)職員の仕事や役割が明確であり、それぞれの仕事を責任を持って行っている	B	B	個々の仕事に対する責任感や危機管理意識の違いがみられた。気になった事は職員全員で共有し安全対策を検討した。
	(2)危機管理意識を持ち、緊急時に対応できる体制が整えられている	B	B	
	(3)園内外の研修は計画を立て実行している	B	B	

保護者支援・情報	(1)保護者に対して、丁寧な言葉遣いと、気持ちの良い対応を心掛けている	B	B	保護者アンケートでは85%の回収率となった。保護者からの温かい言葉を沢山頂いた。ドキュメンテーションは、子どもたちの活動があるとすぐに発信されたがアンケートでは、もう少し大きさ・見やすさを検討してもらいたいと言う意見をいただいたことで、新年度に向け改善していく
	(2)保護者に子どもの伸びているところや課題を伝え、連携をとっている	B	B	
	(3)様々な園行事を通して保護者との良好な関係を築こうとしている	B	B	
	(4)園だより、ドキュメンテーション、きっずノート、ホームページ等を通して、保育内容や子どもの姿や保護者への情報を発信している	B	B	
	(5)子どもの個人記録は、個人情報保護法に基づいて管理している	B	B	
	(6)職員に、園内で知り得た事柄に対しての守秘義務を周知徹底している	B	B	

開かれた保育園	(1)小学校と連携し、情報交換をする機会を持つ			
	(2)気になる子どもの対応について、外部の専門機関と連携をとりながら対応している	B		(1, 2)該当なし

子育て支援	(1)地域で子育てをしている親子の交流の場となるように努めている	D	D	園児の保護者や園見学者には子育てや悩みなどの相談を聞くことは出来たが、地域に向けては、なかなか発信することは難しかった。法人ホームページやインスタグラム発信のみになっている。
	(2)子どもの心身の発達や育児不安について気軽に相談できるように努めている	B	B	
	(3)園生活の子どもの様子を地域にも発信している	C	C	

総合的な現状と課題

今年度は法人キャリアアップ研修に参加し、新規職員だけではなく、在職職員も法人の保育理念や保育目標について学べたことで改めて環境について話し合う機会が増え、子どもたちの活動・遊びでは色々なことにチャレンジすることができた。異年齢保育(1, 2歳児)では子どもたちの遊びの展開に合わせ、都度手作り玩具が設置されることで子どもたちが遊び込むコーナーが出来てきた。また今年度は早い時期から0歳児クラスも1,2歳児と合同の活動が多かったことで、0歳児の遊びが大きく広がりがった。食育は計画の実行があまり見られず、来年度に向け子どもたちの身近な食材から興味が持てるような食育計画の見直し・給食職員と保育士との連携を深めていくことを課題としていく。散歩時、園児と保育士の関わりの微笑ましさに近隣の方から温かい言葉を頂き、ひなたの森保育園に好意を持って頂けて良かった。